

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和4年2月16日

事業所名

スイッチーズ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	15	0	0	0		
	2	職員の配置数は適切である	14	1	0	0	手厚いと思う。	土曜、長期休み中の朝の職員体制について。 →職員の体調や適性を考慮し配置する。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	10	3	2	0	床には物を置かない。手すりを設置している。	手すりは設置してあるが、階段があり不便さはあるので、付き添いを徹底する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	12	2	1	0	毎日のミーティング、月一の全スタッフミーティング開催している。	引き続きミーティングで情報共有していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	13	2	0	0	相談は多く受けている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	13	2	0	0		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	2	2	3		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	14	1	0	0	毎日のミーティング、月一の職員会議で共有している。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	12	3	0	0	児発管、一部スタッフがやっている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	10	4	1	0	個々のカルテを共有する。作業評価などをミーティングにて共有している。	今後新しいツールを導入していく予定。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	13	1	0	1	担当者→スタッフに内容がわかるようおろしている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	14	1	0	0	スタッフ間で意見を出しあい、季節ごとのイベントも取り入れている。好評のため一部固定化もある。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	15	0	0	0		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	15	0	0	0		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	15	0	0	0	毎日のミーティングで利用者の情報共有、当日の担当確認を行っている。	
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	11	3	1	0	報告は行いが、共有は翌日のミーティング内で行っている。	Hugシステムの活用やミーティングで情報共有を図る。	

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	14	1	0	0	ケア記録として支援終了後に記録しておく。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	13	2	0	0		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	10	4	0	1		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	14	1	0	0		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	14	1	0	0		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	8	3	1	3	自身が把握できていない。医療的ケア児がいない。	実例なし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	11	3	0	1		学校によって偏りがある。相互理解が得られるよう努めていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	12	1	0	2		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	11	1	1	2		コロナにより実施できていない。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	3	8	0		コロナにより実施できていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	8	5	0	2	オンライン参加しています。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	14	1	0	0	Hugシステムのサービス提供記録にて1日の様子を伝えている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	7	5	2	1	保護者も含めた児童支援会議を行っている。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	13	0	0	2		
31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	13	2	0	0	児発管が行っている。		

保護者への説明責任等	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	4	5	0	年に1~2回イベントを通して行っている。	コロナ禍でできていないが、クリスマス会で少人数での交流は行っている。 BBQ、2年連続コロナのため中止となる。 感染症の状況をみながら交流の場を企画していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	13	2	0	0		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	13	1	0	1	Hugにてお知らせ、連絡している。	Hugシステムの活用、周知を行う。
	35	個人情報に十分注意している	15	0	0	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	14	1	0	0	絵カードなども使用し配慮している。	Hugシステムを活用し、写真の掲載もすることで保護者の方にも様子を伝えられるよう工夫している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	8	3	4	0		コロナ禍のため難しいが安全に配慮して行えればと思う。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	12	2	0	1		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	12	1	2	0		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11	2	2	0		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	11	2	2	0		現在、身体拘束が必要な児童はいない。必要があれば保護者への説明・理解を得、職員研修を行い全体に周知する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10	3	1	1		実例なし。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	12	1	1	1		